



一般社団法人 日本家政学会第 70 回大会を 日本女子大学で開催

一般社団法人日本家政学会第 70 回大会が、日本女子大学家政学部共催のもと、2018 年 5 月 25 日(金)から 27 日(日)の 3 日間にわたり、日本女子大学目白キャンパスで開催されました。1949(昭和 24)年 10 月に設立総会が本学で開催されて以降、10 年ごとの周年大会はほぼ本学で開催されています。

大会には約 800 名が参加。代議員総会、講演会、研究発表 310 件(口頭発表・ポスター発表)、学会企画の催し、企業展示、ランチョンセミナーなどを盛会の裡に終えることができました。

本学実行委員会企画の講演会(公開)のテーマは「今こそ、社会貢献を考える」でした。

記念講演 :「安全安心な生活を追求する家政学」(蟻川芳子元理事長・学長)

教育講演 1:「社会に貢献するという生き方～災害支援と女子大学～」

(平田京子家政学部住居学科教授)

教育講演 2:「女性が活躍する社会を実現させるためにやるべきこと」

(大沢真知子人間社会学部現代社会学科教授・現代女性キャリア研究所所長)

テーマのコンセプトは「日本女子大学家政学部の使命を確認するとともに、家政学、家政学部のこれからの社会貢献とのかかわりで展望すること」でした。

日本女子大学創業者成瀬仁蔵の家政学部構想は、家政学部の使命を家庭生活向上、社会改良に置き、卒業生に対しては「社会貢献を当然なもの」としています(『日本女子大学家政学部 100 年のあゆみ』より)。そのため家政学部の教育には、いわゆる家事教育ではなく、それを科学によって裏付け、さらにその前提として広い教養を課していくという在り方を求め、カリキュラムには、家政をとるにあたって必要な総合科学を構成するものとして自然科学、精神科学(心理学・教育学・児童学・美術史など)、社会科学を置きました。

蟻川氏の記念講演は、聴衆にとって、アメリカの家政学そして本学家政学部のルーツを共有し、そのうえで家政学の今日的な在り方を問うものでした。

2021 年には創立 120 周年を迎えます。時代も、生活をめぐる環境も大きく変化し、家政学も家政学部も常に新たな対応を求められています。創立当初の構想を軸に、家政学・家政教育・家政学部を発展させる方向性と可能性が確認されました。

(日本家政学会はこの春、社会の課題対応に家政学を生かし、家政学の認知につなげるべく、学会認定資格「家庭生活アドバイザー」を設立しました。その意味でもこのテーマは時宜を得たものといえます。)